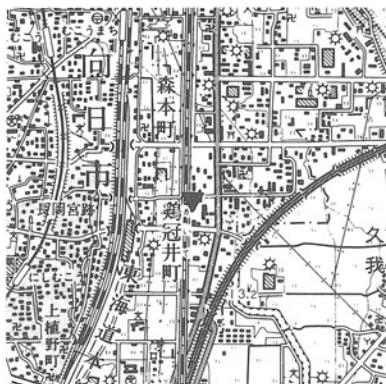
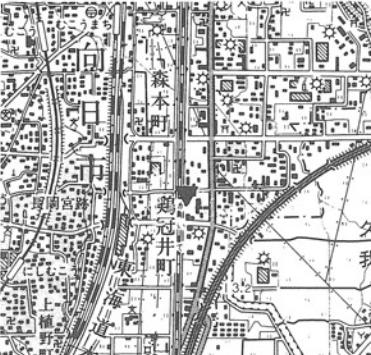


2002年出土の木簡



(京都西南部)

- | | | |
|---|--|---|
| 1 | 所在地 | 京都府向日市鶏冠井町馬司 |
| 2 | 調査期間 | 左京第四七三次調査 一〇〇一年(平14)六月~ |
| 3 | 発掘機関 | (財)向日市埋蔵文化財センター |
| 4 | 調査担当者 | 國下多美樹・松崎俊郎 |
| 5 | 遺跡の種類 | 都城跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 長岡京期(七八四年~七九四年) |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 調査地は、左京一条大路・東二坊大路交差点の北部を含む二条二坊十五町南東隅、二条三坊二町南西部と推定され
る。 |
| | 検出した遺構には、二条
一条大路北側溝、東二坊大
路東西両側溝とその路面上
の礎を伴う路盤工事跡のほ
か、十五町においては二時
期の変遷がある掘立柱建 |  |

物・井戸・柵・溝、二町においては一時期の変遷をもつ掘立柱建物・井戸・凹地・溝がある。調査の結果、両大路の交差状況が明らかになり、交差点に面する宅地の性格を判断できる多量の遺物（遺物整理用コンテナ二六〇箱）が得られた。

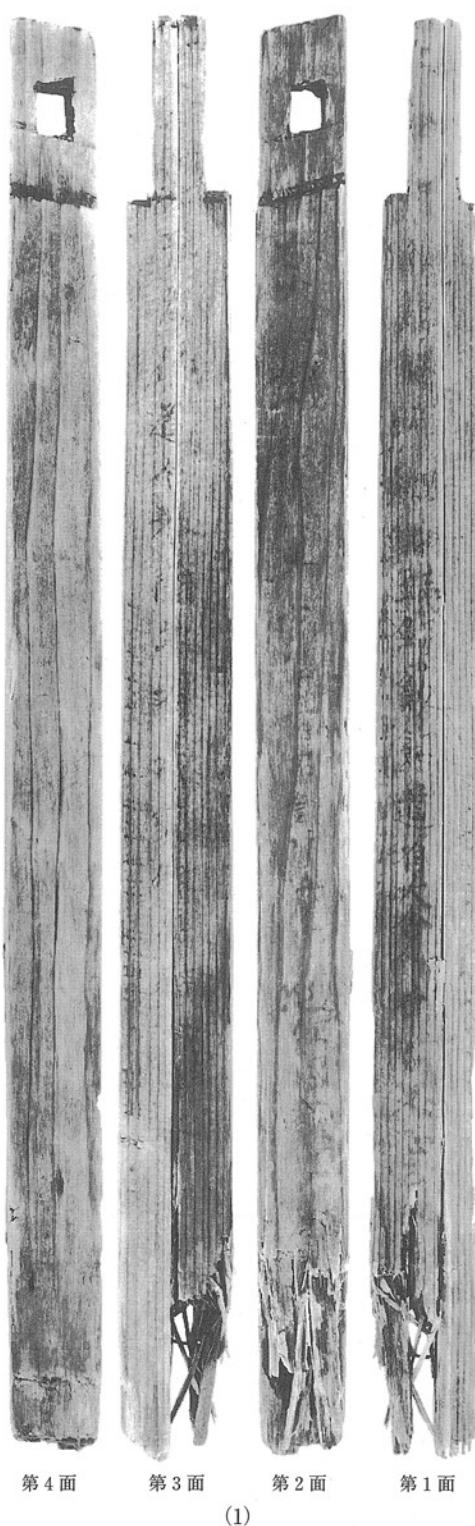
木簡は計一〇点出土した。内訳は、東二坊大路西側溝SD四七三一〇から六点、同東側溝SD四七三三〇から一点、二条余間大路北側溝SD四七三三六から一点、東二坊大路路盤から一点、十五町内の溝SD四七三三一から一点である。

一方、東側溝は一部に掘り直しがあるが、大きな改修は受けっていない。東側溝の木簡は多量の土器類とともに、機能を終えた段階で二町側から投棄されたとみられる。共伴して墨書き土器（「土家」「家」ほか約八〇点）が出土し、過去の調査成果も合わせて二町も官司とみられる。

検出した遺構には、二条
条間大路北側溝、東二坊大
路東西両側溝とその路面上
の礎を伴う路盤工事跡のほ
か、十五町においては二時
期の変遷がある掘立柱建

東二坊大路路盤

- (1) .「縄紀□綱鯛鰯釣飯餅道有大舍人右十人正正□」 (第一面)
- ・「右大臣錢延暦□年七月十三日右釣廿五□ 近江国蒲生郡 (第一面)
- ・「□□行道今^{〔季カ〕〔年カ〕}蘭^{〔前カ〕〔魚神カ〕}有□□牧□□成□ 倉□□□^{〔塩カ〕}」 (第二面)
- ・「□□縄^{〔継カ〕}」
- (2) .「若人調龜堅魚宅籠」
- ・延暦^{〔七カ〕〔十カ〕}年□月
- (3) .「▽粟田□□錢」
- ・「▽ □□」 119.5×20×6 032
- (4) 「▽□子^{〔竹カ〕}」 (85)×(12)×4 039
- (5) ▽□ □□^{〔米カ〕}五斗▽ (136)×(13)×3 031
- (6) .「祝祝□」
- ・「沫」 □□ (7) □□ (32)×(6)×2.5 081
- 溝□□□□□□□ 114×16×7 065
- (8) .「□□□□□」 (85)×(25)×4 081
- ・「□□」
- 二条条間大路北側溝□□□□□□□ (9) .「▽舟□^{〔生カ〕}」
- ・「▽庄庭成五斗」 (97)×18×5 039



(1)

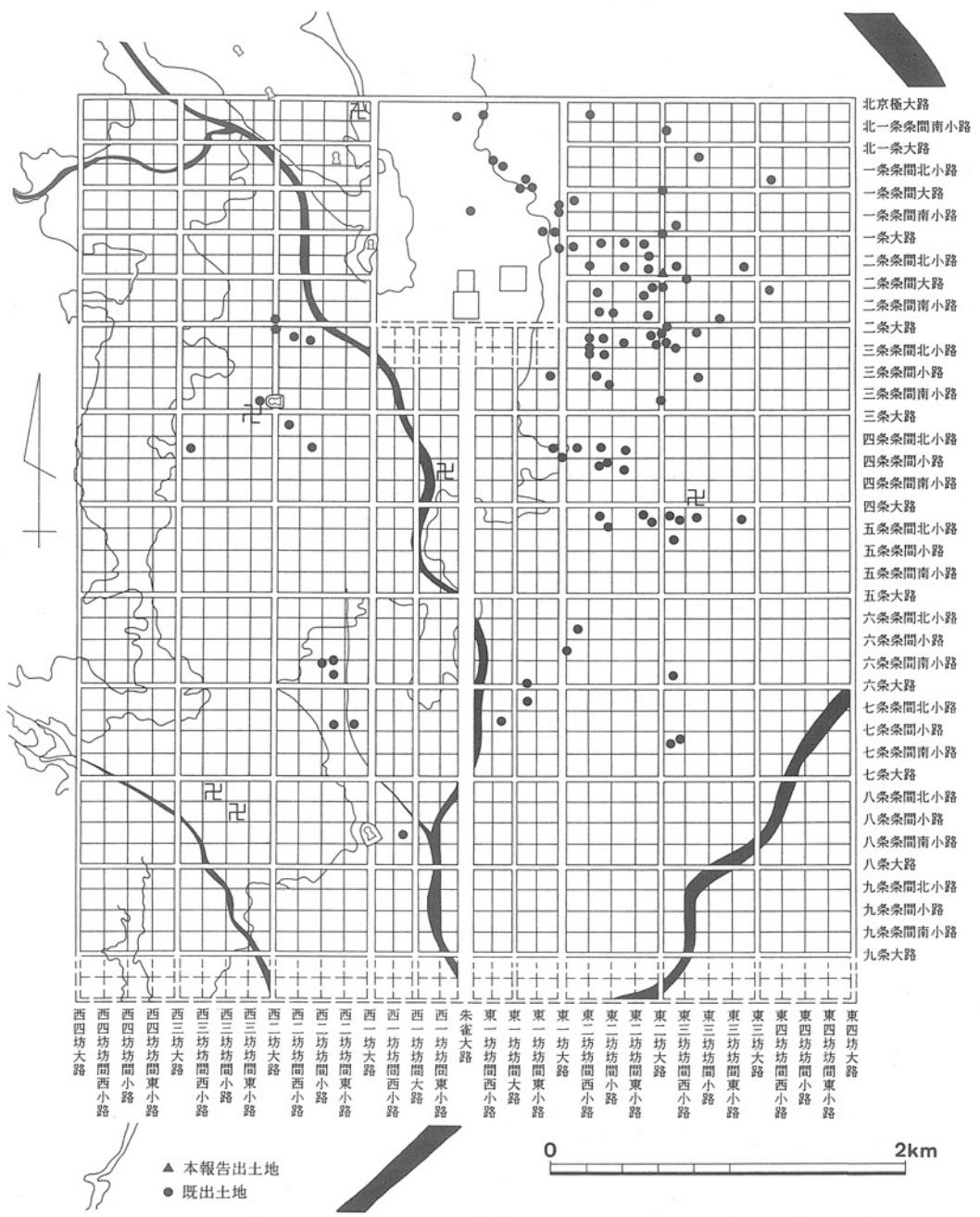
(國下多美樹・佐藤直子)

(10) 米 魚魚
・茵 (左側面) (280)×(17)×20 065

(2)～(8)は左京一条一坊十五町に関連する。すべて板目。(2)は調の荷札。年紀は残画からみて延暦七年(七八八)か。(3)は「人名+銭」の付札。「銭」の下には数量・単位などの文字が続くことが予想されるが、剥離しているため不明である。(4)は竹の子の付札。(5)は米の付札。(6)は呪術的な木簡か。

(9)(10)は左京一条三坊二町に関連する。(9)は米の荷札か。板目。(10)は部材に習書したものの、柾目。
なお、釈読は京都大学の鎌田元一氏の指導のもとで佐藤直子が行なった研究が、奈良文化財研究所史料調査室・歴史研究室の方々のご教示を得た。

(1)は部材の四面に習書したもの。少なくとも一人以上の筆による。糸偏・魚偏・金偏の文字を二～四文字書いたものや、典籍の一部と思われるものと、記録風の習書が書かれている。年紀は残画からみて延暦八年(七八九)または延暦一〇年で、東二坊大路の路盤改良が行なわれた時期が推定できる。延暦八年七月一三日の時点での右大臣は藤原是公であるが、同年九月に薨じた後、翌九年一月に藤原継繩が就任している。なお、第三面の「成」の次は「成」または「咸」。



長岡京跡木簡出土地点図